

YAMAHA SILENT ENSEMBLE PIANO

サイレントアンサンブルピアノ

取扱説明書

ごあいさつ

このたびは、ヤマハサイレントアンサンブルピアノをお買上げいただき、まことにありがとうございます。お求めのサイレントアンサンブルピアノを正しくお使いいただくために、お使いになる前に、本書をよくお読みください。お読みになったあとは、必ず保管してください。

本製品について

ヤマハサイレントアンサンブルピアノは、ピアノ電子音をヘッドフォンで聞きながら演奏できる「サイレント機能」と、ピアノの演奏を録音・再生できる「自動演奏機能」、さらに豊富な音色をもつ内蔵電子音源などを使ってさまざまな楽器パートを加えたアンサンブルも1台で行える画期的な楽器です。パーソナルコンピュータとのシステムアップもスムーズ。本書をご参考にサイレントアンサンブルピアノを十分にご活用いただき、ピアノを中心とした幅広い音楽の世界をお楽しみください。

YAMAHA
SILENT ENSEMBLE
PIANO

サイレントアンサンブルピアノ

もくじ	iv
安全上のご注意	vi
必ずお読みください	viii
ご使用になる前に	viii
コントロールパネルについて	x
リモコンについて	xii
フロッピーディスクについて	xiv
メモリディスクとフロッピー	xvi
様々なフォーマット	xvii
機能と操作のページ	xviii

PART1 サイレント／音色機能 1

消音演奏	1
消音演奏	2
リバーブの設定	3
鍵盤動作のキャンセル	4
最大同時発音数の切り換え	5
音色モード	6

PART2 自動演奏機能 9

再生	9
再生のしかた	10
選曲	12
早戻し・早送り	13
サウンド早戻し・早送り	14
再生時の調節	15
音量調節	15
移調調節	16
テンポ調節	17
パートキャンセル	18
パートキャンセル	18
ペダルキャンセル	19
ペダルカウント	20
ペダルカウント再生	20
アンサンブル曲の再生	22
再生	22
マスターバランス	23
ピアノパートセレクト	24
アンサンブルパート音色表示	25
内蔵音源機能	26
マスターチューン	26
リピート機能	27
全曲リピート	27
1曲リピート	28
ランダムリピート	29
A-Bリピート	30
リターン&ストップ	31
サーチ機能	32
ダイレクト選曲	32
ダイレクトサーチ	33

メトロノーム 35

メトロノーム機能	メトロノームの使い方	36
----------	------------	----

録音 39

フォーマット	フォーマットのしかた	40
録音のしかた	基本的な録音のながれ	42
	再録音	44
	タイトル入力	46
	メトロノーム録音	48
	クオンタイズとオーバーダビング	50
LR録音のしかた	LR録音(追加録音のしかた)	52
	LRセットアップ	54
	LRスプリット録音	55

アンサンブルパート録音のしかた	アンサンブルパートの録音	56
	リズムパートの録音	58
いろいろな録音機能	ペダルカウントの録音	60
	録音テンポ変更	62
	MDR機能	63
トラック		65
トラック機能	トラックミックス	66
	トラック移動	68
	トラックコピー	70
	トラック消去	72
	トラック移調	74
ディスク		77
ディスク管理の機能	曲消去	78
	曲コピー	80
	曲並び替え	82
	ディスクコピー	84
	曲フォーマット変換	86
	カウンター変更	88
	ディスクタイプ変換	90
MIDI		93
MIDIセットアップ機能	MIDIセットアップメニュー	94
	Piano Part	95
	MIDI Out	96
	Remote	97
	Local	98
オートセットアップ		99
オートセットアップ機能	オートスタート	100
	スペースプレイ	102
リセット		103
リセット機能	リセット機能の使い方	104
資料		107
	内蔵音源の音色一覧表	108
	接続について (AUX端子、TO HOST端子)	110
	MIDI Implementation Chart	111
	仕様	112
よりよくご活用いただくために		115
	取り扱いについて	116
	操作ガイド	118
	まずお調べください	120
	索引	122
	保証とサービスについて	124
.....		
活用ガイド		
	音源のご紹介	7
	ソフトについて	8
	アンサンブル曲とは...	21
	楽しみ方を広げるLR録音	38
	トラック、パート、チャンネル	64
	ディスクの使いこなし	76
	フォーマットについて	92
	TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携	106

安全上のご注意 (必ずお守りください)

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあけるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	---

△ 記号は、**危険、警告または注意**を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、**行為を強制または指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※お読みになった後は、使用されるかたがいつでも見られる所に必ず保管してください。



警告

この表示内容が無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

⊘ 本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。

⊘ 浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。

⊘ 使用中に電子音が出なくなったり、異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

! 電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。

⊘ 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電の恐れがあります。

! 電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。
感電やショート of の恐れがあります。

⊘ 本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

⚠ 注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

- ⊘ 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ⚠ 電源プラグを抜く時は、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。
- ⊘ タコ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりすることがあります。
- ⊘ 電源コードやプラグが痛んだときは使用しない。
また、長時間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電、ショート、発火などの原因になります。
- ⚠ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷の恐れがあります。
- ⊘ 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- ⊘ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がケガをしたりする原因になります。
- ⚠ 本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードを傷めたり、お客様が転倒したりする恐れがあります。
- ⚠ 本機を移動するときは、引きずらない。
床を傷つける恐れがあります。
- ⚠ 本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。
ケガをする恐れがあります。
- ⚠ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。
鍵盤蓋に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。
- ⚠ 地震のときは、本機から離れる。
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。
- ⊘ 本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。
また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本機が破損する原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間使用しない。
聴覚障害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合や、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

*この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ご使用になる前に

●付属品をご確認ください

- * リモコン 1個
- * リモコン用電池 単3×2本
- * ステレオヘッドホン 1個
- * オーディオケーブル 1本
- * 試聴用ソフト 1枚
- * ブランクディスク 1枚
- * 取扱説明書(本書)
- * 家族みんなの楽しいピアノ(ビデオ) 1本

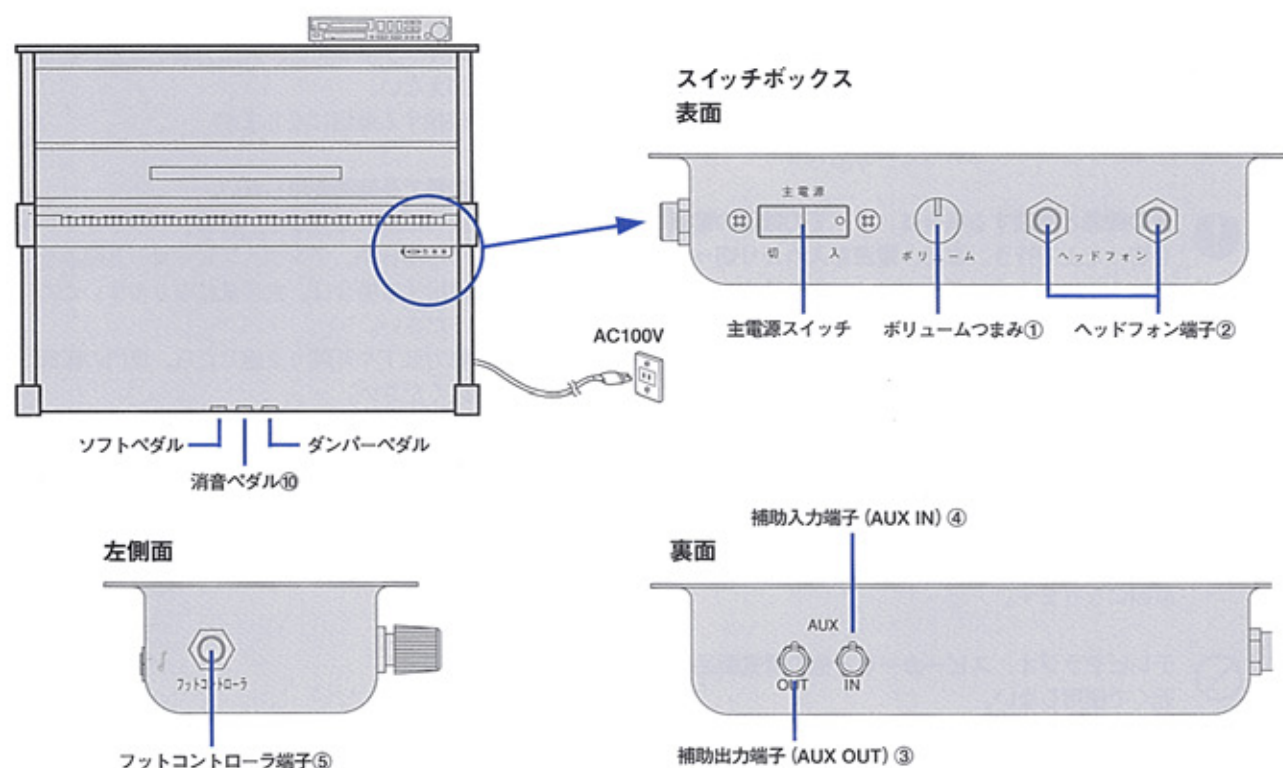
●設置について

設置にあたっては、以下の場所を避けてください。

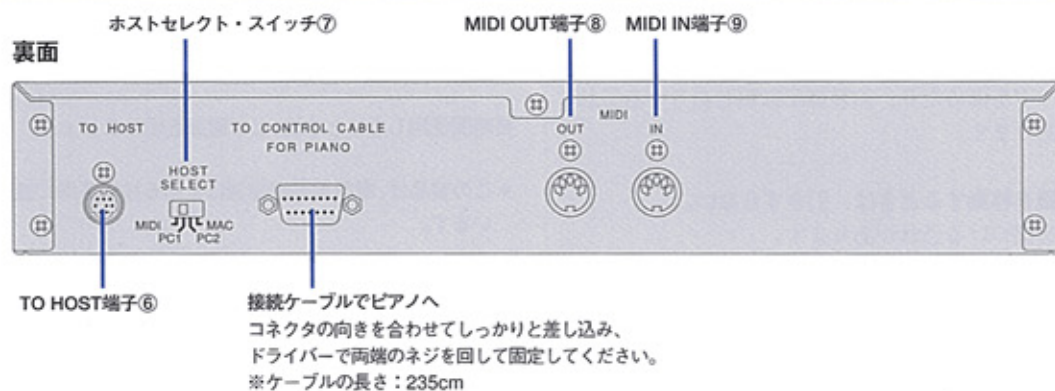
- ・窓ぎわなど、直射日光のあたる場所
- ・暖房器具のそばなど高温の場所、多湿の場所
- ・ホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

煙やスプレーなどがかからないようにしてご使用ください。
P116「取り扱いについて」参照

●スイッチボックスとペダル



●コントロールユニット



	名 称	機 能	参照頁
①	ボリュームつまみ	サイレント使用時に、ヘッドフォン端子や補助出力端子から出力されるピアノ電子音および内蔵電子音源の音量を調節します。	2
②	ヘッドフォン端子	付属のヘッドフォンや市販のヘッドフォンを接続します（ステレオフォンジャック）。サイレント使用時にピアノ電子音による演奏を聴くことができます。また、内蔵電子音源による演奏や自動演奏も聴くことができます。	2
③	補助出力端子	外部のステレオ用アンプやアンプ内蔵スピーカー（いずれも別売）などの音声入力端子に接続します。ピアノ電子音、内蔵電子音源、補助入力端子からの音声を送られます（ステレオミニジャック）。	110
④	補助入力端子	外部の電子音源（別売）などの音声出力端子と接続します（ステレオミニジャック）。	110
⑤	フットコントローラ端子	フットコントローラまたはフットスイッチ（いずれも別売）を接続します。再生・録音のスタート、テンポコントロールなどが足元で行えます。	113
⑥	TO HOST端子	パーソナルコンピュータの通信用端子と接続します。	106, 110
⑦	ホストセレクト・スイッチ	パーソナルコンピュータ（3タイプ）または外部MIDI入力のいずれと交信するかを選択します。	110
⑧	MIDI OUT端子	外部のMIDI機器のMIDI IN端子と接続します。	93～98
⑨	MIDI IN端子	外部のMIDI機器のMIDI OUT端子と接続します。	93～98
⑩	消音ペダル	消音演奏（ピアノの音を消してピアノ電子音で演奏）する際にセットします。	2

補助入力端子、補助出力端子、TO HOST端子と外部機器との接続については、P110をご覧ください。

●電源について ～サイレントアンサンブルピアノには電源をオン/オフする個所が2つあります～

- 1 電源プラグをコンセントに差し込み、スイッチボックスの主電源スイッチを「入」にします。ふだんはこの状態でご使用ください。
- 2 サイレント機能、自動演奏機能、内蔵音源をご使用になる際は、主電源スイッチが「入」になっていることを確認のうえ、コントロールパネルの電源ボタンをオンにします。これらの機能を使い終わったら、コントロールパネルの電源ボタンのみオフにしてください。
- 3 長期間ご使用にならない時は、コントロールパネルの電源ボタンがオフになっていることを確認のうえ、主電源スイッチを「切」にした後、さらに電源プラグをコンセントから抜いてください。

《ご注意》

- 主電源スイッチや電源ボタンをオフにした後、再度オンにする場合は、5秒以上の間隔をあけて行ってください。
- 電源ボタンをオンにした状態で主電源スイッチを「切」にしないでください。コントロールパネルのボリュームの位置によってはソフトペダルがドスンと戻ってしまったり、サイレント状態では通常のピアノとして使えなくなります。次回電源を入れた時に正常に動作しない場合があります。

コントロールパネルについて 各ボタンを確認しましょう

ディスプレイ ●

曲やフロッピーのタイトル、機能メニュー、内蔵音源の設定、エラーメッセージなどを表示します。

曲番号表示部 ●

曲番号を表示します。

電源ボタン ●

電源のON/OFF。

ディスク挿入口 ●

フロッピーをここから入れます。

ディスク取り出しボタン ●

フロッピーを取り出します。

セットボタン ●

機能・設定項目・設定値を確定します。

カーソルボタン ●

機能・設定項目の選択。タイトル入力時のカーソル移動やディスプレイの次画面を呼び出す時にも使います。

録音ボタン ●

録音待機に入ります。

ストップボタン ●

演奏を停止させます。再生以外の機能を解除する時にも使います。

プレイ/ポーズボタン ●

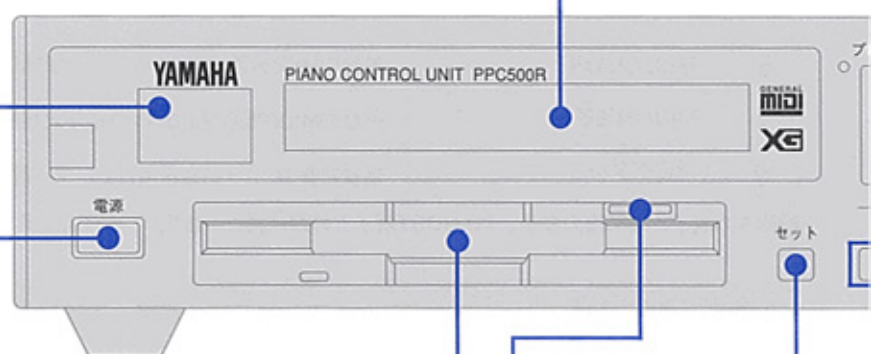
演奏の再生、一時停止（ポーズ）、演奏再開（ポーズ解除）。録音のスタートにも使います。

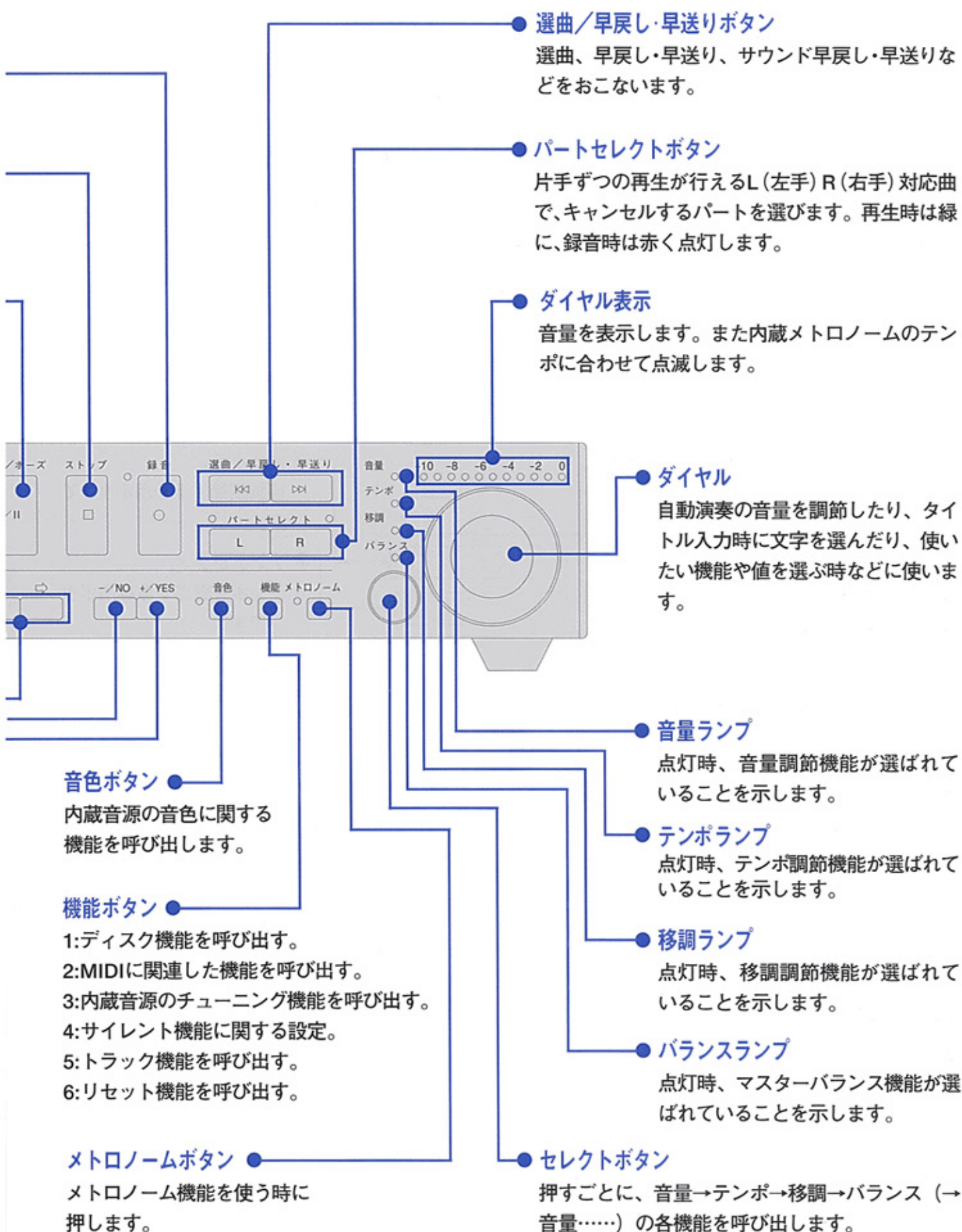
－/NOボタン ●

設定値の選択（マイナス）。フォーマットなどで確認メッセージが表示された時には、処理を中断します（ノー）。＋/YESボタンと同時に押すと、設定を初期値に戻すことができます。

＋/YESボタン ●

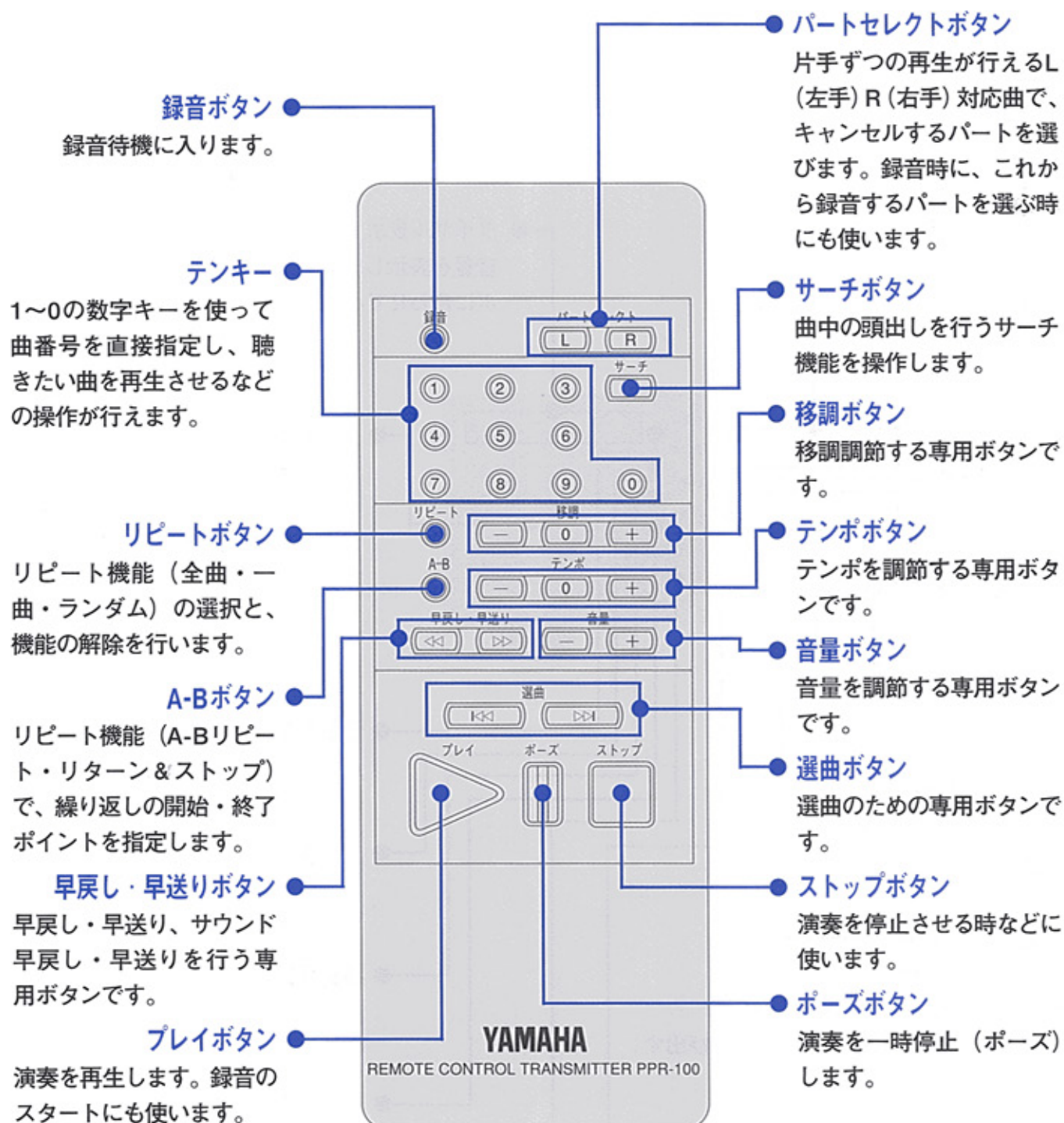
設定値の選択（プラス）。フォーマットなどで確認メッセージが表示された時には、処理を続行します（イエス）。－/NOボタンと同時に押すと、設定を初期値に戻すことができます。



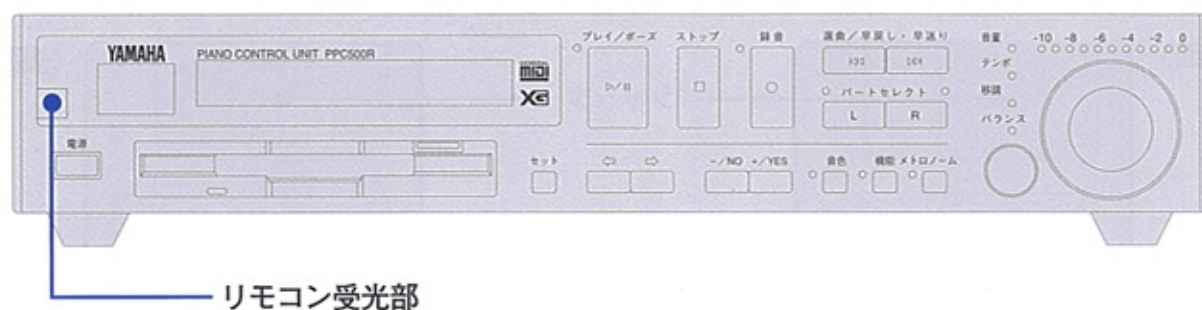


リモコンについて

各ボタンを確認しましょう

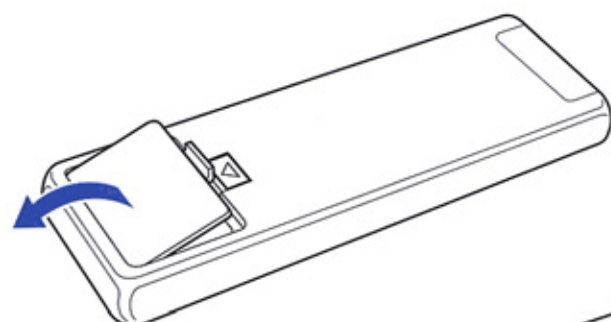


●リモコンの先端を、コントロールパネルの受光部に向けて操作してください。

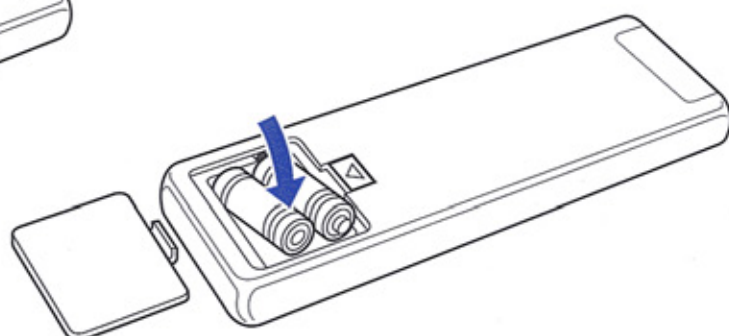


●リモコンに使用する乾電池は、単3×2本です。

裏面のバッテリーカバーをはずします。



電池ケース内の指示通りに＋と－を正しくセットします。



バッテリーカバーを元に戻します。

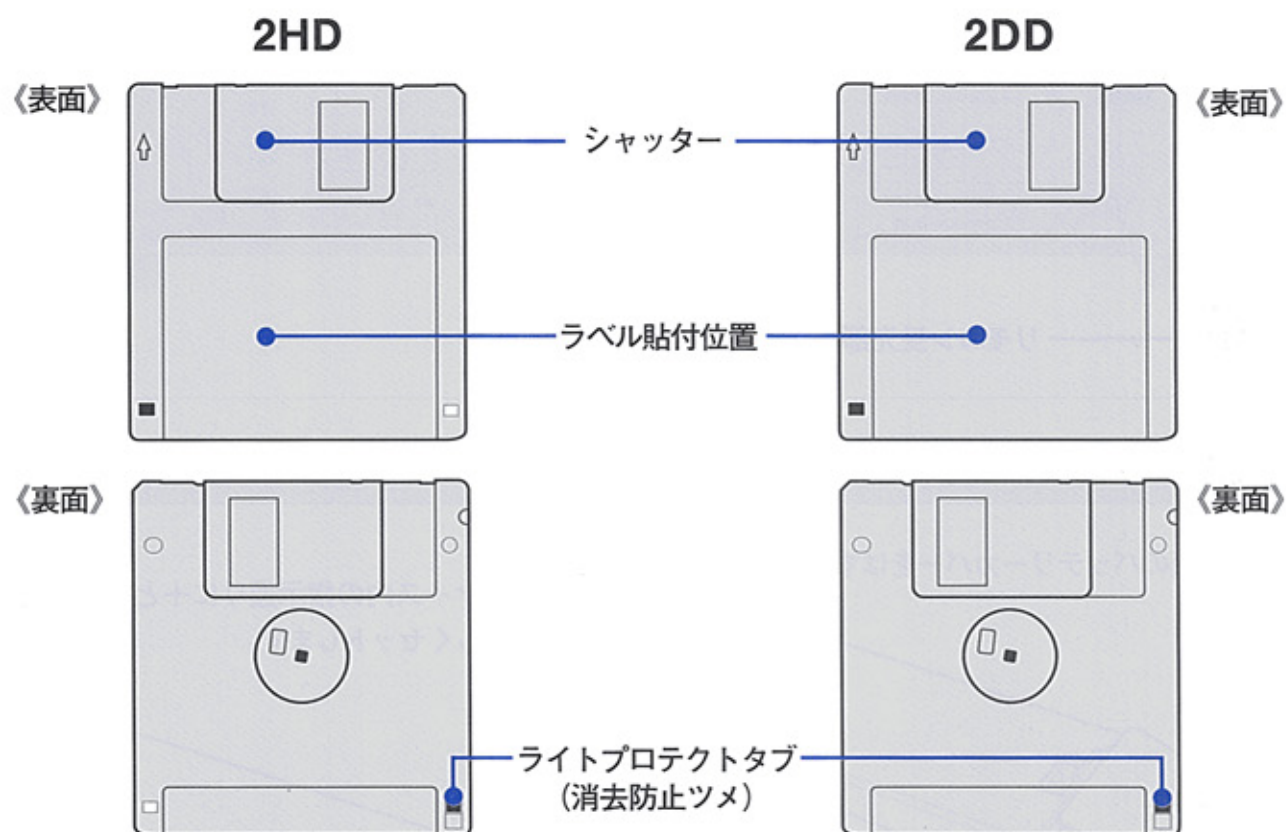
●電池交換について

リモコンで操作できる距離が短くなってきたら、電池を交換してください。

同じタイプの電池を2本同時に交換してください。

リモコンを長時間使用しない場合は、液もれを防ぐため、電池を出して保管してください。

フロッピーディスクについて 各部の名称と取り扱い



●フロッピーディスクの種類

市販の3.5"マイクロフロッピーディスク(2HDまたは2DD)をご使用ください。

●フロッピーディスクの挿入



図のようにフロッピーの表面(シャッターに文字が書かれている方)を上にして、カチッと音がするまでディスク挿入口に正しい向きに差し込みます。

●フロッピーディスクを取り出す時のご注意

- ・ディスク取り出しボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーが完全に出たことを確認してから取り出してください。
- ・ディスク取り出しボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、フロッピーが途中で引っかかり、取り出せなくなる場合があります。ここで無理にフロッピーを取り出そうとすると、フロッピーがこわれたり、サイレントアンサンブルピアノが故障する原因になります。このような場合は、もう一度ディスク取り出しボタンをしっかりと正確に押し直して、取り出してください。

■以下の場合、決してフロッピーを取り出さないでください。

- ・録音中、ディスク機能の実行中、編集後の保存中、トラック機能の実行中
- ・その他一般に「ディスクトリダサナイデ!」「シバラクオマチクダサイ」が表示されたり、本書に「フロッピーを取り出さないでください」と記載してある場合

■電源を切る時は、フロッピーをあらかじめ取り出してから行ってください。フロッピーを入れたまま長期間放置すると、ディスクが汚れ、録音や再生などにエラーが生じる原因になります。

●磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ・フロッピーのデータを読み取る磁気ヘッドは、長期間使用しているうちにフロッピーの磁性粉で汚れて、録音や再生などにエラーが生じることがあります。磁気ヘッドは、定期的に(1ヵ月に1回程度)クリーニングすることをおすすめします。
- ・磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、本書巻末のヤマハサービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」(ZX000060 ¥1,400 [税別])をお求めいただくこともできます。

●フロッピーディスクの取り扱いと保管

フロッピーの中には演奏を記録する磁性体が入っています。磁性体および本機の磁気ヘッドを保護するため、以下の点にご注意ください。

- ・保管したり持ち運ぶ場合は、必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり、折り曲げたりしないでください。また、フロッピー内部に水やホコリが入らないようにしてください。
- ・フロッピーのシャッターを開けて、磁性体にふれないでください。
- ・磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)は近づけないでください。
- ・直射日光の当たる場所や、特に高温/低温の場所、多湿の場所などに置かないでください。
- ・フロッピーにはラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。また、ラベルは所定の位置にはがれないようにしっかりと貼ってください。

●誤消去防止

フロッピーには誤ってデータを消してしまうことがないように、ライトプロテクトタブ(誤消去防止ツメ)が付いています。大切なデータの入っているフロッピーは、タブをオン(窓が開いた状態)にして、録音やフォーマットなどができないようにしてください。

プロテクトオン(録音不可)



プロテクトオフ(録音可)

※市販フロッピーの中には粗悪品もございます。メーカー名をお確かめの上、お求めください。また、変形しているフロッピー(シャッターやフロッピー本体)は、絶対に使用しないでください。

●フロッピーディスクドライブの動作音について

フロッピーを使用した選曲時や録音待機時に、フロッピーディスクドライブから「カチャカチャ」という音が聞こえる場合があります。これはディスクを読み書きするための動作音です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

●録音用の新しいフロッピーは、必ずフォーマットしてから使います(P40「フォーマットのしかた」参照)。

メモリディスクとフロッピー

●2種類のディスク

- ・本機には、演奏データ(曲)を2種類の場所(ディスク)に保存しておくことができます(保存の操作を行わないと演奏データは失われます)。
- ・1つがコントロールパネルの中に内蔵された「メモリディスク」です。もう1つが、ワープロやパソコンでおなじみの「フロッピーディスク」です。それぞれの特長をご理解のうえ、両者を組み合わせてご使用ください。
- ・なお、この取扱説明書では、フロッピーディスクは「フロッピー」と表記しています。

●メモリディスク

- ・メモリディスクは本体に内蔵されており、録音や再生のたびにいちいちフロッピーをセットする手間がありません。また保存の操作を行えば、電源を切ってもメモリディスクの中の演奏データが消えることはありません。
- ・なお、ディスクという名称がついていますが、フラッシュメモリという一種の半導体を使用しており、フロッピーのように磁性体を塗ったディスク(円盤)が入っているわけではありません。

●フロッピー

- ・フロッピーは、メモリディスクと違って本体とは独立していますから、演奏データを持ち運んだり、他の人に渡したり、別のサイレントアンサンブルピアノで再生したり、分類・保管したり、またパソコンのフロッピードライブにセットするのに便利です。
- ・なお、本機でご使用いただけるフロッピーは、3.5"の2HDまたは2DDフロッピーディスクです。

●ディスクの使い分け

- ・ふだんの録音や再生にはメモリディスクをお使いになり、必要に応じてメモリディスクからフロッピーに曲コピーを行って整理されることをおすすめします。
- ・そしてメモリディスクの中が一杯になってきたら、大切な演奏データがフロッピーにコピーされていることをご確認のうえ、曲消去を行ってください。

※ディスクの残量表示についてはP42～43「基本的な録音のながれ」を、曲コピーについてはP80～81「曲コピー」を、曲消去についてはP78～79「曲消去」を参照してください。

※フロッピーの取り扱いについては、xiv「フロッピーディスクについて」を必ずお読みください。

※メモリディスクとフロッピーの使いこなしについては、P76「ディスクの使いこなし」をお読みください。

様々なフォーマット

「フォーマット」は形式のことですが、この取扱説明書では次の3種類の意味に使用しています。

- (1) 新しいフロッピーを本機で使えるようにする操作
- (2) ディスクタイプ
- (3) 曲の記録形式

●新しいフロッピーを本機で使えるようにする操作

- ・新しいフロッピーはそのままでは本機で使用できません。本機で使えるようにする操作のことを「フォーマット」と言います（「初期化」とも言います）。
- ・なお、すでに演奏データ（曲）の入ったフロッピーを再度フォーマットすることができますが、そうすると演奏データはすべて無くなってしまいます。逆に言えば、すべての曲を消去するためにフォーマットの機能を使うこともできます。
- ・本機で利用できるフロッピーは「3.5」の2HDまたは2DDですが、本機でフォーマットすると2HDの場合は1.44MBタイプに、2DDの場合は720KBタイプに初期化されます。

●ディスクタイプ（メモリディスクやフロッピーを本機で使用する時の形式）

- ・フォーマット時に、ディスクタイプを「SMFタイプ」（初期値）と「E-SEQタイプ」の2種類から選択することができます。
- ・「SMFタイプ」とは次の項目で紹介する「スタンダードMIDIファイル形式」の曲を記録するためのディスクフォーマット、「E-SEQタイプ」とは次の項目で紹介する「E-SEQファイル形式」の曲を記録するためのディスクフォーマットです。
- ・メモリディスクは工場出荷時にあらかじめSMFタイプにフォーマットされていますが、再フォーマットすることも可能です。

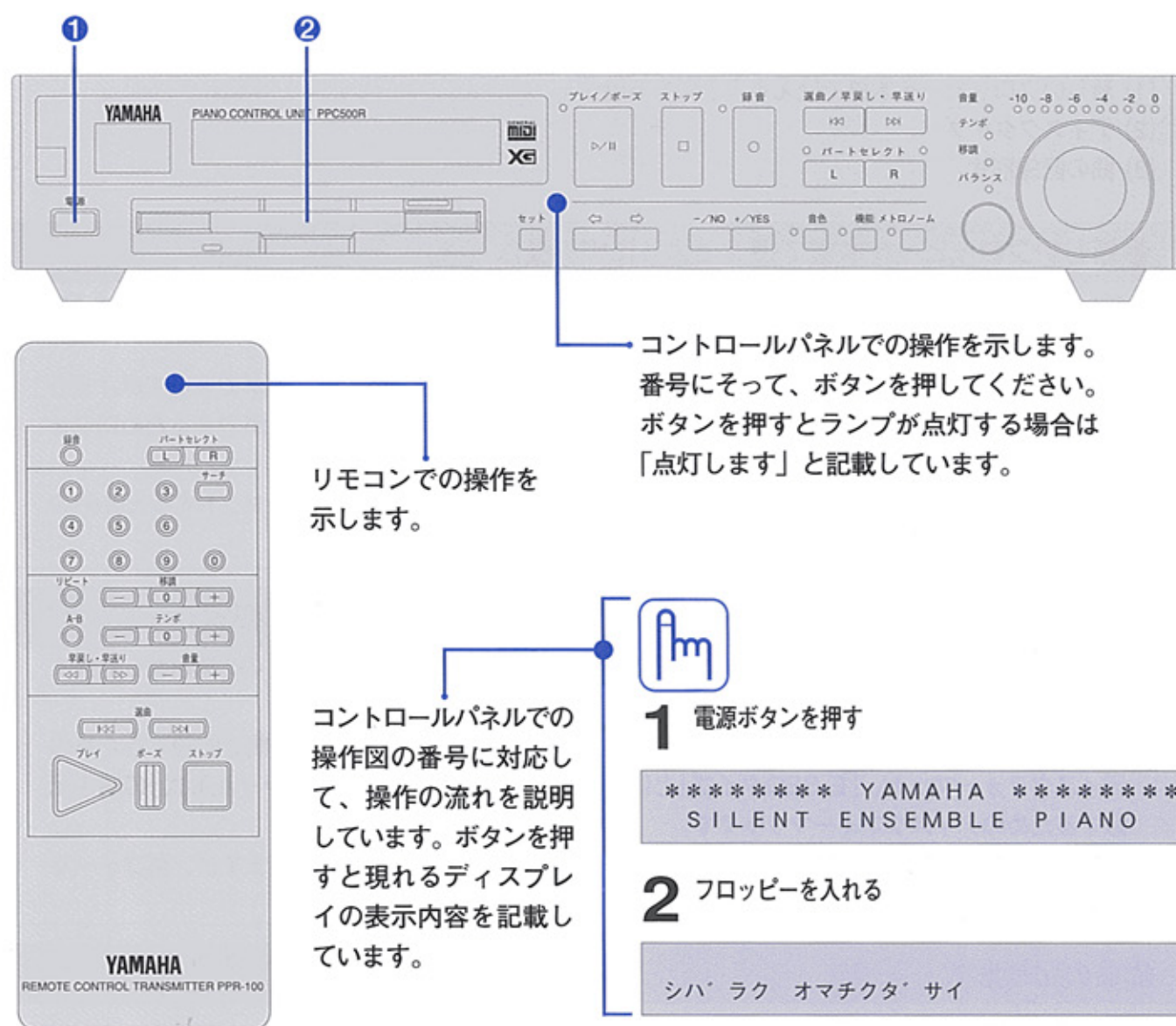
●曲の記録形式

- ・曲（ソング）には色々な形式がありますが、本機で扱えるのは次の3種類です。
 - (1) スタンダードMIDIファイルのフォーマット0（ディスプレイに「S0」と表示されます）
 - (2) スタンダードMIDIファイルのフォーマット1（ディスプレイに「S1」と表示されます。再生のみ可能です）◆トラックチャック数17まで再生します。
 - (3) E-SEQファイル（ディスプレイに「ES」と表示されます）
- ・スタンダードMIDIファイルのフォーマット0形式の曲のことを本書では「SMF曲」と呼び、SMFタイプにフォーマットされたディスクに録音します。スタンダードMIDIファイルは、パソコン用の音楽ソフトで作成される曲とも互換性があり、現在もっとも広く使われている形式です。
- ・E-SEQファイル形式の曲のことを本書では「E-SEQ曲」と呼び、E-SEQタイプにフォーマットされたディスクに録音します。E-SEQファイル形式は、従来のサイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤーとの互換性を重視した形式です。これらの機種でも使用するためには、2DDフロッピーをE-SEQタイプにフォーマットしてください。

※フォーマットの操作については、P40～41「フォーマットのしかた」をご参照ください。

※ディスクや曲のフォーマットについては、P92「フォーマットについて」やP106「TO HOST端子の活用とパソコン音楽ソフトとの連携」をご参照ください。

機能と操作のページ 本書のみかた



操作説明.....操作手順をディスプレイにそって説明しています。



機能説明.....機能内容、機能の設定範囲などを説明しています。



操作のポイント.....操作上のポイントをあげ、手順を補足説明しています。




注意.....操作上の注意をあげました。必ずお読みください。



サイレント.....サイレント機能を使っている時（消音演奏時）のポイントをまとめてあります。

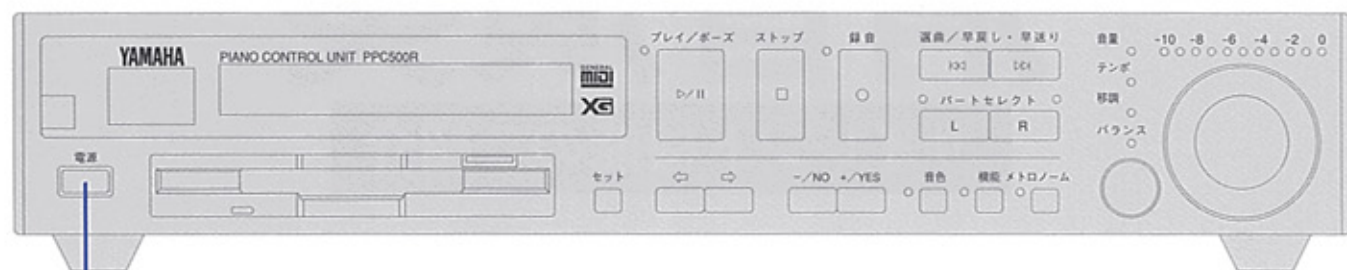
消音演奏

サイレント機能のご紹介

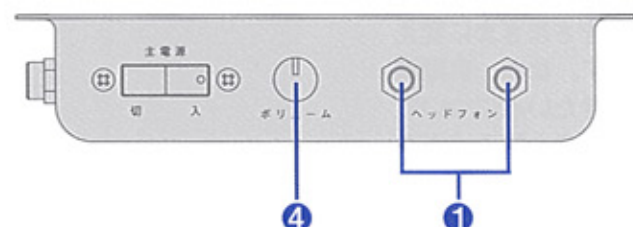
ピアノの音の消し方や、ピアノ電子音に豊かな残響を加える方法などをご紹介します。夜間でも、周囲に気兼ねなく、心ゆくまでピアノ演奏をエンジョイしてください。また曲によって、雰囲気に合わせて、音色をさまざまに変えて演奏するのも楽しいものです。なお、自動演奏機能使用時にご注意いただきたい点については、PART IIのマークの説明をお読みください。

ピアノの音を消して演奏したい	消音演奏	P2
ピアノ電子音に残響を加えたい	リバーブの設定	P3
自動演奏時に鍵盤を動かさない	鍵盤動作のキャンセル	P4
連弾曲を消音演奏したい	最大同時発音数の切り換え	P5
内蔵電子音源の多彩な音色を使って演奏する	音色モード	P6

消音演奏 ピアノの音を消し、ピアノ電子音で演奏する



2



4

1

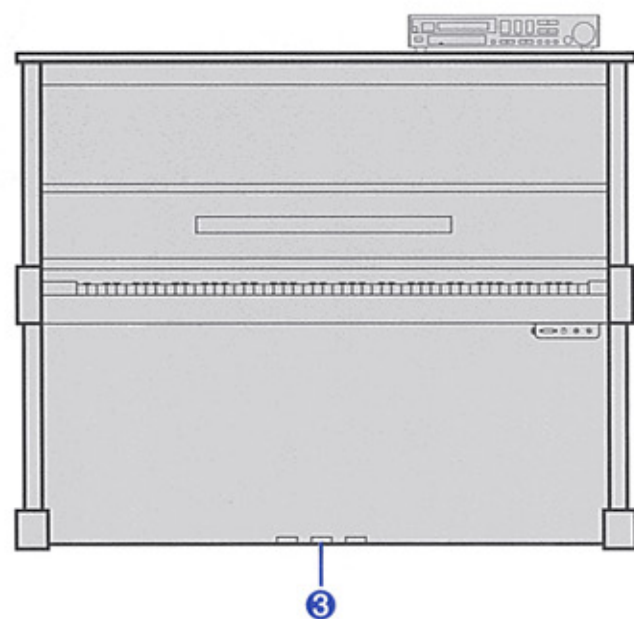


1 ヘッドフォンをヘッドフォン端子に接続してください (ヘッドフォンは2本まで同時に使えます)。

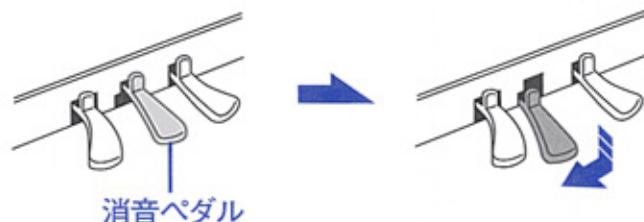
2 コントロールパネルの電源ボタンをONにしてください (あらかじめ、スイッチボックスの主電源が「入」になっている必要があります)。

3 消音ペダルを下に踏み込んでから左側にセットしてください。これでピアノの音が消えます。

4 ボリュームつまみでピアノ電子音の音量を調節します。



3



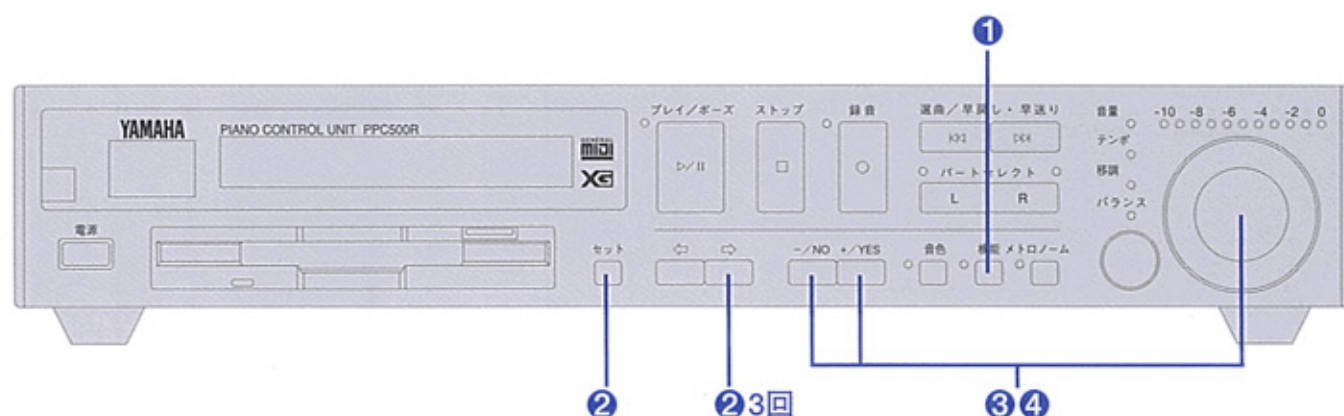
●ボリュームつまみが3時の位置が、標準のボリューム位置です。この時、ピアノの音とヘッドフォンで聴いたピアノ電子音が、ほぼ同じ音量になります。

●自動演奏の再生も消音演奏させることができます。また、再生途中で消音ペダルをセットしたり戻したりしてもかまいません。



●消音ペダルをセットした時のかすかな音は、ハンマーシャックストップパーを動かすモーターの音です。

リバーブの設定 消音演奏（ピアノ電子音）に残響を加える



1 機能ボタンを押す

▶ディスプレイ *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 カーソルボタン⇐⇒を3回押して「▶サイレント」と表示させ、セットボタンを押す

リハーフ ▶OFF フカサ =■■■■□□
ケンパシオン =ON ハツオンスウ=16

ディスプレイに複数の項目が表示されている場合、▶があるのが設定可能な項目や選択された機能です。設定したい項目を選んだり機能を選択するには、⇐⇒ボタンを押して▶を移動します。

3 -/NO、+/YESボタン、ダイヤルでリバーブのタイプを選ぶ

リハーフ ▶ルーム フカサ =■■■■□□
ケンパシオン =ON ハツオンスウ=16

4 カーソルボタン⇐⇒で▶をフカサに移動し、-/NO、+/YESボタン、ダイヤルでリバーブの深さを选ぶ

リハーフ =ルーム フカサ ▶■■■■□□
ケンパシオン =ON ハツオンスウ=16



- 「リバーブ」は、残響を加えて、音に自然なうおいを与える効果のことで、「タイプ」と「深さ(かかり具合)」の2つを設定します。
- リバーブのタイプは次の3種類です(OFFで効果なし)。

タイプ名	効果
ルーム	響きやすい部屋の中で弾いた時のような残響効果
ホール1	小さなコンサートホールで弾いた時のような残響効果
ホール2	大きなコンサートホールで弾いた時のような残響効果

- リバーブの深さは次の4段階です。

■■■■□□……浅い
■■■■■□……やや深い
■■■■■■□……深い
■■■■■■■……かなり深い

- タイプがOFFの場合、深さの設定は無効となり、リバーブの効果はかかりません。



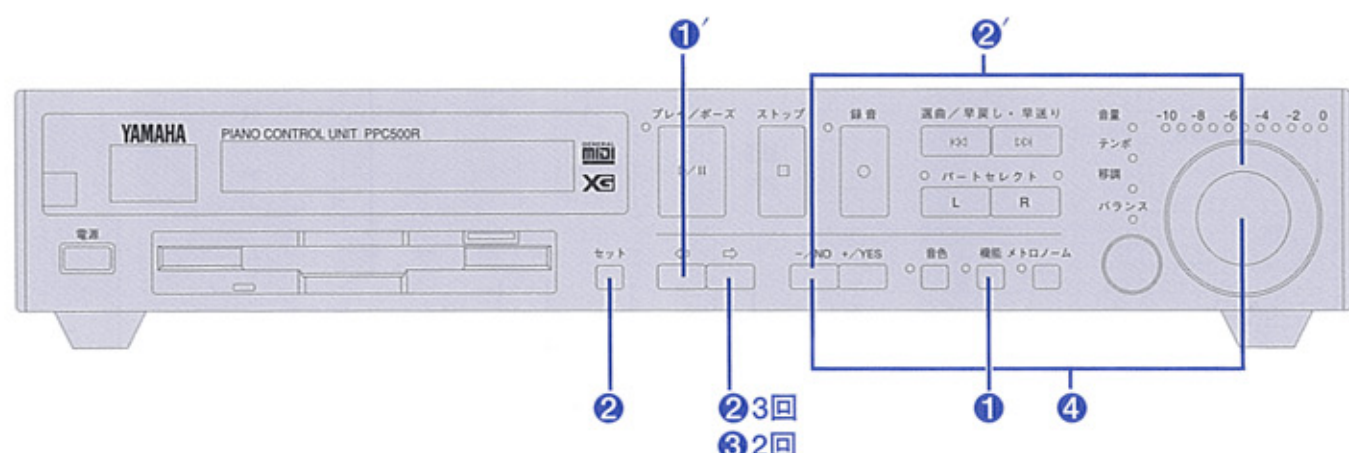
- ピアノを弾いて効果をヘッドフォンで確認しながら設定できます。
- ④で設定後、機能ボタンを押せば曲名表示に戻ります。
- リバーブの設定とあわせて、鍵盤動作のキャンセルや最大同時発音数の切り換え(P4、P5参照)を行うこともできます。



- 電源を切ってもこの設定は記憶されています。
- リセット機能(P104参照)を実行した場合、工場出荷時の状態(OFF、やや深い)に戻ります。

鍵盤動作のキャンセル

消音状態の自動演奏で鍵盤を動かさない



停止状態(曲名表示)でキャンセルを設定する。

1 機能ボタンを押す

▶ディスプレイ *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 カーソルボタン⇐を3回押して「▶サイレント」と表示させ、セットボタンを押す

リハーフ ▶OFF フカサ = ■■■□□
ケンパン = ON ハツオンスウ = 16

3 カーソルボタン⇐を2回押して「ケンパン▶ON」と表示させる

リハーフ = OFF フカサ = ■■■□□
ケンパン ▶ON ハツオンスウ = 16

4 ー/NOボタンを押すか、ダイヤルを左に回すと「ケンパン▶OFF」となり、鍵盤動作がキャンセルされる

リハーフ = OFF フカサ = ■■■□□
ケンパン ▶OFF ハツオンスウ = 16



鍵盤動作をすばやくキャンセルする。
(サイレント状態なら、停止中でも再生中でも行えます)

1' 左向きのカーソルボタン⇐を押して「ケンパン▶ON」と表示させる

ケンパン ▶ON (00:12) →

2' ー/NOボタンを押すか、ダイヤルを左に回すと「ケンパン▶OFF」となり、鍵盤動作がキャンセルされる

ケンパン ▶OFF (00:13) →

※右向きのカーソルボタン⇐を押すと曲名表示に戻ります。



●自動演奏では通常鍵盤が動きますが、この機能を使うと、サイレント時に限って鍵盤の動作をキャンセルすることができます。



●鍵盤を動かしたい時は、④または②'の表示で+ / YESボタンを押すかダイヤルを右に回します。

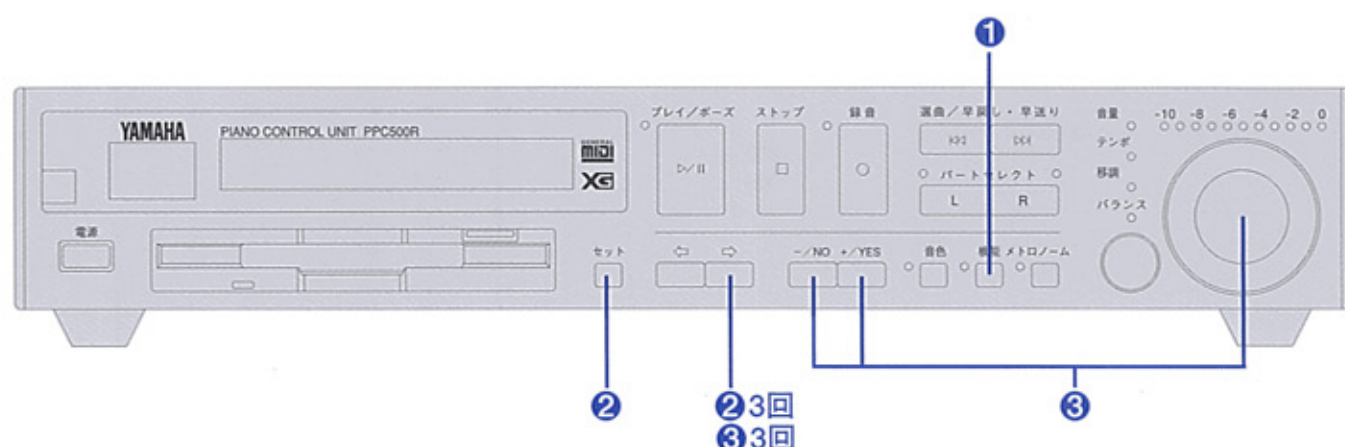


●電源を切ってもこの設定は記憶されています。

●リセット機能(P104参照)を実行した場合、工場出荷時の状態(ON)に戻ります。

最大同時発音数の切り換え

連弾曲やペダルを多用する曲の場合



1 機能ボタンを押す

▶ ティスク *MIDI Setup →
*M-Tune *サイレント

2 →向きのカーソルボタンを3回押して「▶サイレント」と表示させ、セットボタンを押す

リハーフ ▶ OFF フカサ = ■■■□□
ケンパシ = ON ハツオンスウ = 16

3 →向きのカーソルボタンを3回押して「▶ハツオンスウ」と表示させ、-/NO、+/YESボタン、ダイヤルで最大同時発音数を変更する

リハーフ = ルーム フカサ = ■■■□□
ケンパシ = ON ハツオンスウ ▶ 32



●ピアノ電子音の最大同時発音数は、あらかじめ16音(ステレオ)になっていますが、連弾やペダルを多用する曲の演奏や再生では、それ以上の同時発音数が必要になる場合があります。こうした場合に、最大同時発音数を32音(モノラル)に切り換えるための機能です。

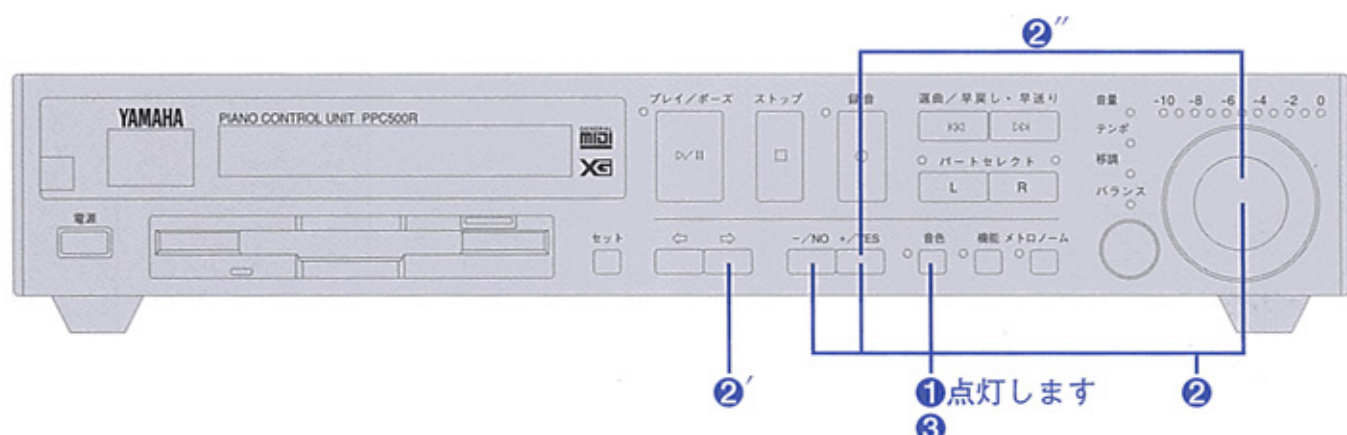


●最大同時発音数の設定とあわせて、リバーブの設定や鍵盤動作のキャンセル(P3、P4参照)を行うこともできます。
●④で設定後、機能ボタンを押すと曲名表示に戻ります。



●電源を切ってもこの設定は記憶されています。
●リセット機能(P104参照)を実行すると、工場出荷時の状態(16)に戻ります。

音色モード ピアノ電子音以外の音色を使って演奏する



自動演奏機能が停止しているか、再生中に操作します。

1 音色ボタンを押して点灯させる

音色番号 音色名
↓ ↓
Voice▶001<GrandPno> [XG]
Vol=100
↑
音量

2 ダイヤル、- / NO、+ / YESボタンで音色を選ぶ

Voice▶013<Xylophon> [XG]
Vol=100

3 内蔵電子音源を使わない場合は、再度音色ボタンを押して消灯させる

サイレント時は、ピアノ電子音も発音させる/させないが選択できます。

2' 右向きのカーソルボタン⇨を2回押して、「PianoTone▶OFF」と表示させる

Voice=013<Xylophon> [XG]
Vol=100 PianoTone▶OFF

2'' ダイヤル、+ / YESボタンで「PianoTone▶ON」と表示させる

Voice=013<Xylophon> [XG]
Vol=100 PianoTone▶ON



- 内蔵電子音源の音色を使って鍵盤で演奏することができます。自動演奏中にも使用できます。
- ピアノ本体も発音します。



- 鍵盤で演奏する場合、内蔵電子音源は128音色+9ドラムキット(ディスプレイの音色名は8文字以内に省略して表示しています)。音色番号・音色名一覧表はP108参照。
- ②でカーソルボタン⇨を1回押して「Vol▶100」と表示させると、ダイヤル、- / NO、+ / YESボタンで音量を調節できます。



- サイレント時は、鍵盤演奏で内蔵電子音源の音色のみ発音させる(「PianoTone=OFF」)か、内蔵電子音源の音色もピアノ電子音も発音させる(「PianoTone=ON」)かが選択できます。



- 音色番号を設定しない状態(「Voice=###」)では、内蔵音源は鍵盤演奏で発音しません。
- MIDIデータにより演奏する場合の内蔵電子音源の音色数は、676音色+21ドラムキットです。

音源のご紹介

- 本製品には、2つの電子音源が内蔵されています。サイレント時にピアノパートを担当するピアノ電子音源と、アンサンブル曲でそれ以外の楽器パートを担当する内蔵電子音源です。

ピアノ電子音源	サイレント時のピアノパート再生用
内蔵電子音源	アンサンブル曲のアンサンブルパート用

- 内蔵音源には一般の楽器音が128種類(鍵盤で演奏する場合)、8音色×16グループに分類されて入っています。この「音色」には1~128番の番号と音色名が付いており、アンサンブルパートの録音時に指定します。再録音により後から音色のみの変更も可能です(市販ソフトなどMIDIデータで演奏する際の内蔵電子音源の音色数は676音色+21ドラムキット)。

- 例えばギターだけでも、ナイロン弦、スチール弦、エレキギターのオーバードライブ・サウンド、ハーモニクス音まで用意されています。バンジョーやバグパイプなどの民族楽器も彩りをそえてくれます。また、楽器単独の音だけでなく、弦楽合奏やオーケストラヒット、ブラスセクションなどの音色を使えば、伴奏パートの作成もスムーズです。さらにシンセサイザーの効果音や渾身の音、電話の呼出し音、拍手、銃声までありますから、アニメ曲やドラマのような雰囲気演出もおまかせです。

- 内蔵音源は、最大16の音色を同時に発音させられるマルチ音源ですから、アンサンブル曲の録音/再生で真価を発揮してくれますが、鍵盤演奏にも使うことができます。停止中・再生中に音色ボタンを押すと、ディスプレイが次の表示になります。

Voice ▶ 001 <GrandPno> [XG]
Vol = 100

ここでダイヤルを回して好きな音色が選べます。鍵盤を弾いて、ヘッドフォンかAUX OUT端子につないだスピーカーで音色を確かめてみてください(サイレント状態にすれば、ピアノの音を消して内蔵音源音色だけを鳴らすことができます)。

- 1~128番の中にも打楽器音が含まれていますが、これらとは別に、内蔵音源はリズムパート用のドラム音色も豊富に持っており、128番の次を選べば「スタンダードキット」が呼び出されます。

Voice ▶ 001 <StandKit> [XG]
Vol = 100

キットとは、いろいろな打楽器が組み合わさったドラムセットのようなものです。一般の楽器は音程をもっており、メロディーを奏でることができます。これに対して通例打楽器は音程がなく、その代わり、複数の打楽器を組み合わせるリズムを作り出します。そこでドラムキットは、1つの「音色」でありながら、C1はバスドラム、D1はスネアドラム……といったように、鍵盤1つ1つに別の打楽器を割り当ててあります。スタンダードの他にも、電子ドラムのセット(25番、エレクトロキット)やジャズ用のバリエーション(33番、ジャズキット)などもあります。

[*参照ページ]

- ◆音色モード……P6
- ◆アンサンブルパート音色表示……P25
- ◆アンサンブルパートの録音……P56
- ◆リズムパートの録音……P58
- ◆内蔵音源の音色一覧表……P108

ソフトについて

- サイレントアンサンブルピアノは、幅広いジャンルのソフトが利用できます。一流ピアニストの名演奏、さまざまなジャンルの名曲をご家庭で楽しめるリスニング用ソフトはもちろんのこと、ピアノ演奏をバックアップするレッスンや練習用のソフト、そして内蔵音源の多彩な音色を活用したアンサンブルソフトまで、ワイドなラインナップを取りそろえています。
- <ピアノソフト>シリーズは、クラシック、ジャズ、ポピュラー、カラオケなど、多彩なジャンルのソフト。数千曲にのぼる豊富なレパートリーを集めました。きっとあなたの愛聴盤が見つかります。
- <ピアノソフトプラス>シリーズは、オーケストラやビッグバンドのパートも収録されたアンサンブル曲のソフト。クラシック、ジャズ、ボサノバなど、迫力のライブ演奏をお楽しみください。
- 月刊「Piano」の演奏データは最新ヒット曲を楽しんでいただくのに最適のソフト。毎月新しいタイトルが5曲ずつ加わります。
- 以上のソフトはヤマハの音楽データ店頭販売システム「ミューマ」でもお買い求めいただけます。
- <レッスンライブラリー>シリーズは、ピアノ教室でもご利用いただけるレッスンソフト。自動演奏システムの特長をレッスンに生かしたオリジナルの教材で、楽譜と解説が付いており、沢山のピアノの先生方に愛用されています。
- <ピアノアンサンブル>シリーズは、楽譜とフロッピーがセットになったソフト。譜面を見ながらデータに合わせて演奏したり、模範となる演奏を聴いたり、さまざまな楽しみ方を発見していただけます。
- どのソフトも、ご自分のこのみに合わせて、音量・移調・テンポなどが調節できます。
- ソフトには、いろいろな再生機能に対応したタイプがあります。<LR対応ソフト>は「パートキャンセル機能」を使ってL(左手・低音側)、R(右手・高音側)を別々に再生できるタイプのソフト。ミュージックスタディ・シリーズやレッスンライブラリー、連弾曲などに採用しています。
- 楽しい<カラオケ・シリーズ>のレパートリーも、ナツメロから最新ヒット曲までワイド。移調機能を使ってご自分のキーに合わせたり、スローなテンポにしたり……。思いのままの伴奏が作れます。

[*参照ページ]

- ◆選曲……P12
- ◆音量・移調など再生時の調節機能……P15～P17
- ◆パートキャンセル……P18
- ◆リピート機能……P27～P31
- ◆サーチ機能……P32～P33

※ソフトに関する詳細は、別途、ソフトカタログをご覧ください。